

環境報告書 2014

九州大学芸術工学部



目次

○トップメッセージ	1
○部局概要	2
○環境マネジメント体制	3
○環境活動と目標	4
○環境関連の授業科目数	5
○環境に関する研究組織	6
○環境月間行事	7
○資源、エネルギー、廃棄物関係のデータ	8
○資源、エネルギー関係のグラフ	9

トップメッセージ



宇宙のオアシスといわれる私たちの地球は46億年前に誕生しました。私たちの直系の先祖であるホモ・サピエンスがこの地球上に現れたのは約20万年前、地球の歴史を1年のカレンダーにすると私たちの人類の誕生は12月31日、しかも除夜の鐘を聞くわずか23分程度前ということになります。私たちは地球上の生物界の新参者に過ぎません。その後、人口はごく緩やかに増え18世紀までに6億人ほどになりました。しかしその後のわずか300年ほどの間に70億人を超えるまでに膨れ上がり、限られた地球表面に今や人類という新参者はあふれかえっています。

この急激な人口増大はまさに産業革命に始まります。さまざまな機械類を駆動する燃料として、また多くの人口を養う食料生産として化石エネルギーの消費は飛躍的に増大します。鍬で畑を耕していた時代に比べて機械化された現代では、トウモロコシの缶詰1個分のエネルギー量を得るために約10倍のエネルギーを投入しています。私たち一人ひとりが生きていくために食を取り、生活に必要なものをつくり、廃棄し、その過程で多くの炭酸ガスや種々の汚染物も出していきます。現在世界で排出される炭酸ガス総量は年間300億トンを超えているのです。こうやって改めて振り返ると、地球上の新参者がこんなにも地球を汚していることを再認識し、その責任の取り方を考えるべきです。

便利な世の中になればなるほどエネルギーを使用するという構図からまだまだ抜け切れていません。ひとり一人がエネルギーを節約し地球環境を保全すべきことは誰でも知っていることです。でもできないのは何故でしょう。人は社会の一員でありながら、社会と個人を分けて考えがちです。つまり、地球は大事だが自分一人くらいエアコンを使いっぱなしにし、ゴミをたくさん出しても社会全体から見ると微々たるものとするのです。でも社会のひとり一人が同じことを考え同じ行動をとるから問題は一向に解決しないのです。これは社会的ジレンマと呼ばれているものです。

地球環境を守るひとつの手段としてリサイクルがあります。1970年代頃から叫ばれるようになりましたが、なかなか普及しませんでした。30年ほどが経ってやっと家電リサイクル法が制定されるなど国や社会が動き出しました。社会的ジレンマから抜け出し、ひとり一人が地球を守る直接的な行動をおこすには長い時間と地道は努力が必要なのです。

本報告書は、大橋キャンパスで取り組む積極的な環境活動を示しています。これからも教職員、学生とともに人類の一員として責任を持って、また時間をかけて地道に努力してまいります。

平成26年7月

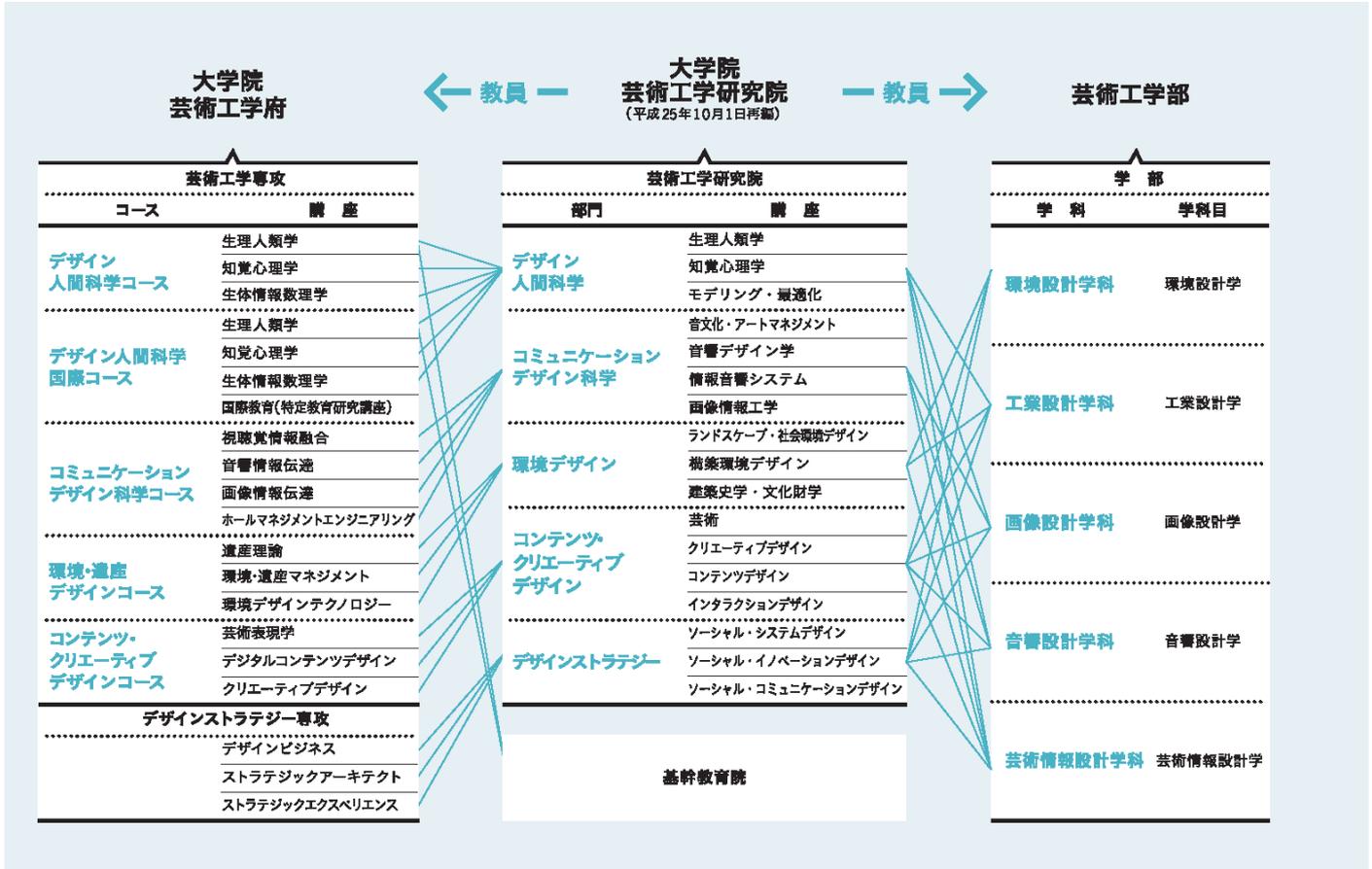
芸術工学研究院長 安河内朗

部局概要

部局名 九州大学芸術工学部

所在地 〒815-8540 福岡市南区大橋4丁目9-1
 TEL 092-553-4400 (番号案内)
 URL <http://www.design.kyushu-u.ac.jp>

組織



構成員 教職員・学生 : 1,487名 (平成26年3月現在)

[内訳] 教職員 176名 (教員: 94名 職員: 73名 研究員: 9名)
 大学院生 421名 (修士課程: 300名 博士課程: 121名)
 学部学生 890名 (1~3年次: 626名 4年次以上: 264名)

環境報告対象の組織 大橋地区 (芸術工学系)

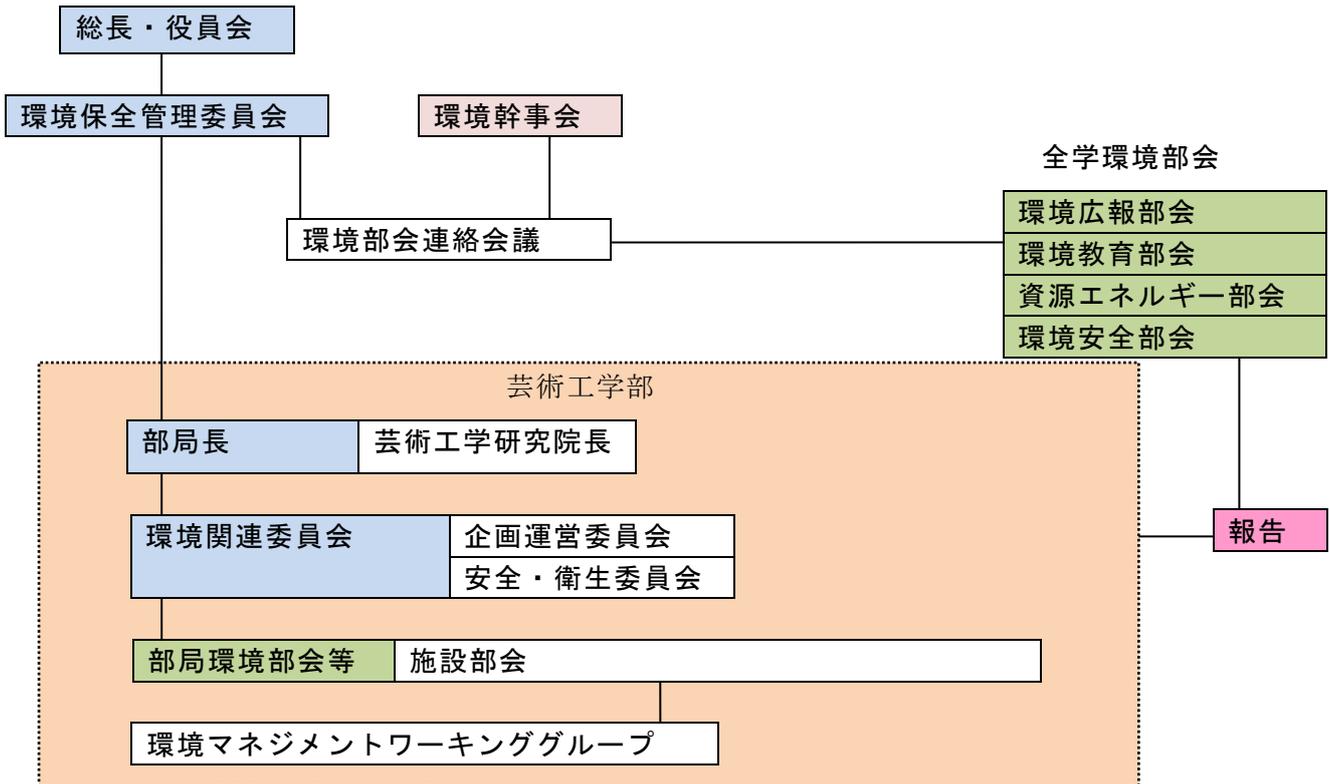
報告期間

「環境報告書 2014」に記載している内容は、主に2013年度 (平成25年4月1日から平成26年3月31日まで) の取り組み、実績値を中心にまとめており、一部に、平成25年3月31日以前及び平成26年4月1日以降7月までの取り組みや活動データが含まれています。

環境マネジメント体制

環境保全管理委員会と連携し、大橋キャンパスにおける環境マネジメントシステムを推進するため、施設部会の下に「環境マネジメントワーキンググループ」を設け、環境に係る事項を集中的に取り扱うこととしました。

環境マネジメントワーキンググループは、環境保全管理委員会委員をグループ長とし、施設部会員2名、関係部署の担当職員数名で構成しています。



環境マネジメント体制における役割

1. 企画運営委員会
運営に関する重要事項を審議する。
2. 安全・衛生委員会
施設内外の安全・衛生に関する事項を総合的に調査・審議する。
3. 施設部会
環境の保全に関する事項を所掌する。内部環境監査チームを設置し内部環境点検を行う。
4. 環境マネジメントワーキンググループ
廃棄物の分別（ごみの分別に関する内部環境点検含む）、再資源化、削減等に関する事項、資源・エネルギー削減等に関する事項、劇・毒物・廃液等の化学物質の管理等に関する事項及びその他の環境マネジメントに関する事項を所掌し、環境配慮の取組を進めるための内部体制や手続き等の環境マネジメントについて検討する。

環境活動と目標

平成 25 年度の具体的な取り組みと平成 26 年度の目標を以下に示します。

事 項	具体的な取組	平成26年度目標
組織・体制	環境報告書の作成を行った。	環境報告書を作成提出する。
温暖化対策	室温を夏季は28度、冬季は19度を目途に設定の呼びかけを行い節電に努めるとともに、クールビスの励行を実施した。	室温の設定を、冷房28度、暖房19度を目途に呼びかける。 職場安全環境に配慮しつつ各部屋の蛍光灯の間引きを行い節電に務める。 夏季の電気量について節電対策で前年比5%削減を目標とする。
資源・循環	ごみの分別・減量の方法を検討し、ゴミ表示の見直し、再配置を行った。 キャンパス内に放置された自転車の整理を行った。	ごみの分別・減量をさらに推進する。 放置自転車の整理については引き続き継続する予定
グリーン購入	環境配慮型製品を優先的に購入する「グリーン購入」を進めた。	九州大学グリーン調達方針に基づく調達を行う。
化学物質管理	化学物質（薬品）管理システムの運用に従い薬品の在庫状況を確認した。	薬品の在庫状況を調査し、不要な薬品類の処分を行う。

環境関連の授業科目数

平成25年度に開講された環境関連の授業科目数（キーワードは、エネルギー、資源、地球汚染等の地球環境に限定）は下記のとおりです。芸術工学部においては、学部で8科目、学府で5科目の授業が行われました。

芸術工学部 8科目

科目名	キーワード
環境社会経済システム論	持続可能性・経済・消費者行動・企業行動・政策
環境設計フィールド基礎演習	自然環境・緑・保全・社会環境・居住・福祉・建築環境・力・光
環境材料論	建築材料・地球環境問題・建築素材と納まり
ランドスケープデザイン論 ランドスケーププロジェクト	ランドスケープ・哲学・文化人類学・環境政策・環境経済学・文化財学・サイトプランニング・敷地分析・コンテクストサーベイ・干潟・生息地・地形・動線・景観
環境保全論	環境保全・植生・環境情報・里地・里山・湿地・ボランテア・生態系・農山村・緑地・環境保全活動・土壌・防災
環境人類学	適応・文化・文化生態学・生態人類学・政治生態学・環境問題・開発援助
緑地環境設計論	ランドスケープ・景観計画・Behavioral Approach・緑地・オープンスペースネットワーク・アメニティ・自然環境・自然公園・計画単位・環境影響評価・景観法・環境基本法・都市公園・都市緑地・水辺環境・親水性・庭園・景観構成要素・観光とリゾート・人間行動・住民参加・緑地環境調査
都市環境設計論	景観管理計画・歴史的環境保全・合衆国都市計画・コミュニティデザイン・ツーリズム・文化遺産・マネジメント

芸術工学府 5科目

科目名	キーワード
自然・森林遺産論	環境保全・景観保全・森林保全・生物多様性・市民参加・環境教育・農山村・地域計画・環境調査・環境管理
環境・遺産デザインプロジェクトI	農業・林業・環境・地域遺産・生活システム・生活文化
ランドスケープマネジメント	ランドスケープ・アーキテクチャ・緑地・オープンスペース・環境共生・景観保全・整備・人間行動・サステナビリティ
持続社会マネジメント	環境共生・地域形成・NPO・協働・パートナーシップ・エンパワーメント
国際協力マネジメント	文化・開発援助・開発理念・NGO・農村開発・貧困・途上国

環境に関する研究組織

芸術工学研究院では環境デザイン部門において環境に関する研究を行っています。他の芸術系学部や理科系学部にはない総合的な分野が多く含まれています。

■環境計画部門の概要

望ましい生活環境の形成・持続のために、人間と環境の織りなす諸関係の歴史・哲学・人類学的考察ならびに自然環境の保全・組成に関する研究、生活環境の防災・調整・経済システム、環境諸要素の設計・生産システムの研究を行うとともに、地域・都市・建築及び自然・歴史環境の計画・設計に関する実践的研究を行います。

■研究内容

講座名	研究内容
環境論	人間と環境の織りなす諸関係の歴史的・哲学的・人類学的考察、自然環境の組成的・保全的考察に基づき、望ましい環境の形成に関する高度な教育研究を行う。
環境計画設計	望ましい生活環境の形成に必要とされる地域環境、都市環境、建築環境、自然環境、歴史環境の計画・設計について、実践的見地から高度な教育研究を行う。
環境システム	望ましい生活環境の持続に必要とされる防災・調節システム、環境諸要素の設計・生産システム、適正な経済システムについて、高度な教育研究を行う。

■主な研究施設

施設名	施設紹介
環境実験棟	造物の安全性に関する諸実験並びに住環境の快適性に関する諸実験を通じて、環境設計条件についてのより深い理解を求めようとする教育研究上の施設である。環境実験棟は総床面積 489m ² の 2 階建てで、1 階に多目的構造物加力実験装置、2 階に小型風洞が設置されている他、関連する諸装置が設備されている。
室内気候実験室	住宅、オフィス等の温熱環境の設計・制御・計測のための基礎的資料の収集を目的として 2 号館 1 階に設置されている 44m ² の実験室で、気温及び湿度の調整装置が設備されている。

■公開講座

講座名	研究内容
絆の環境設計	「エコロジー」エコロジー。今日の環境設計において、この言葉は効率的・機械的・一方向的なありかたから、充實的・生命的・循環的なありかたへの転換を象徴しています。東北大震災の復興を目指すランドスケープを学ぶ学生たちの取り組み、人々の祈りが形となり緑地を守ってきた津オシの社叢、つながりの中で事業を起こす森林バイオマスの取り組みなどを通して、ミドリの環境をつくる絆を考えます。

「環境月間」行事等

1 放置自転車等の撤去

自転車やバイクが駐輪場以外の場所に放置されてそのままの状態になっていたものを、一定の期間内に移動をする旨のタグを貼り付け、期間を超えても駐輪場に移動されなかったものについては撤去処分を行いました。



2 節電対策の実施

夏季の冷房期間及び冬季の暖房期間には、電力使用量を抑えるために室内温度の設定を徹底し、省エネ対策に努めました。大橋地区の電気契約については、平成25年9月30日付けで900kWから850kWに契約変更し、その範囲内で収まるように節電を励行しました。

また、補正予算における建物改修工事において2号館及び工作工房における空調機を省エネ仕様にし、節電対策のための設備更新を行いました。

3 夏季の軽装（クールビズ）の励行・冬季のウォームビズの励行

地球温暖化防止及び省エネルギーに資するため5月1日から10月31日まで、可能な限りクールビズの励行を行いました。なお、来客者等には掲示により理解を得るように努めました。また、冬の地球温暖化防止対策について暖房を可能な限り使用せず、衣服で調節するよう励行しました。

4 スロープの設置

バリアフリーに対応するため、2号館と体育館入り口の2箇所にスロープ設置工事を行いました。



資源、エネルギー、廃棄物関係のデータ

延べ床面積 39,769m²

単位：kWh

電気	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
	2,822,095	2,890,225	2,583,174	2,411,408	2,415,898

単位：m³

都市ガス	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
	31,863	36,617	39,073	38,119	47,376

単位：L

重油	22年度	23年度	24年度	25年度
	19,516	15,048	10,550	0

単位：トン-CO₂

二酸化炭素排出量 (電気、都市ガス、重油)	22年度	23年度	24年度	25年度
	1,743	1,566	1,456	1,452

単位：GJ

エネルギー発熱量 (電気、都市ガス、重油)	22年度	23年度	24年度	25年度
	31,244	31,244	26,211	26,270

単位：m³

下水道	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
	25,196	19,135	19,864	17,461	11,394

単位：千枚

用紙	22年度	23年度	24年度	25年度
	1,545	1,569	1,703	1,677

※A4換算できない為、メーターカウント数で掲載している。

単位：トン

古紙	22年度	23年度	24年度	25年度
新聞	1	1	1	1
段ボール	4	4	4	4
雑誌雑紙・他	17	21	14	15

単位：トン

廃棄物	22年度	23年度	24年度	25年度
可燃ごみ	11	10	28	29
厨芥ごみ	1	1	2	2
粗大ごみ				

単位：kg

分別ごみ	22年度	23年度	24年度	25年度
不燃ごみ	99	178	114	128
資源化瓶	1,410	1,629	1,164	987
飲料缶	1,623	1,046	1,870	1,446
金属くず	127	267	307	268
ペットボトル	2,124	1,858	1,780	2,288
有害付着物	0	0	0	0
蛍光管	239	287	214	194
乾電池	4	35	55	87
スプレー缶	1	1	1	1
疑似医療系	37	0	0	4

単位：kg

その他	22年度	23年度	24年度	25年度
無機系廃液	100	0	0	0
有機系廃液	0	0	0	0
定着廃液	0	0	0	0
廃薬品(本)	0	0	35	6

資源、エネルギー関係のグラフ

